

タイトル	歌える限り、喜び歌う
ポーランド語のタイトル	Z uśmiechem zaśpiewam ile tylko będę mogła
テーマ *	c
名前	マルレナ クルシェフスカ
ポーランド語の名前	Marlena Kruszevska
学校名 * 2	ワルシャワ大学
学年	4年生
日本滞在歴	なし

\*a. 異文化理解 b. 現代の諸問題 c. 私の大切なもの d. 私からの未来へのメッセージから選択

皆さんは、何か心からやりたいことがありますか。私は子供の頃からクラシック音楽が大好きで、よくピアノを弾いたり、歌を歌ったり、オペラを見たりしていました。でも、中学生になってからは勉強も大変になり、音楽学校に入るといことは考えませんでした。そんなことをする時間はないと思ったのです。

しかし、心の奥に、ずっと悔いが残っていました。楽しい時でも、どこか空虚な気持ちがありました。そんな中で、もう一つの夢である日本学科に入りました。

ちょうどその頃、私はフィルハーモニーでボランティアの活動を始めました。そこで偶然、男の人と知り合い、後で私たちは付き合うことになりました。彼は音楽家なので、私はだんだん音大の先生や学生、そして様々な音楽家と知り合い、そのうち、彼らがとてもうらやましくなりました。皆、自分の興味のあることに打ち込んでいるからです。

そんなある日、私は皆と一緒に椿姫のオペラを見に行きました。そして主人公が一人ぼっちで死にかけながら「さようなら、過ぎ去った日々よ」というアリアを歌った時、私は感動で胸が震えました。椿姫は、強く深く響く声で、悲しみを歌い上げていたのです。その悲しさは胸にこたえましたが、同時に心が清らかになるのを感じました。

そこで私は、自分が後悔していることを一気に告白しようと思いました。私の夢を「過ぎ去った日々」にしたくはないと思ったのです。そして皆に「もう、人生を無駄にしたくない。私もあんな美しい声を出してみたい!」と言いました。すると、友達は皆口々に「じゃあ音楽学校に入りなよ!」「勇気を出して。簡単だよ、入学なんて」と、背中を押してくれたのです。友人たちはその日ずっと私を説得し続け、ついに私は音楽学校に入学しようと決めました。

今はどんなに忙しくても、入ってよかったと思っています。もちろん、日本学科と音楽学校の両立は大変だし、学費のためにアルバイトをしているので、友達と会う時間すらありません。でも、先生に怒られながら、どんどん歌が上達するので、毎日が楽しく、もう悔いは感じません。私にとって、オペラ歌手として成功するかどうかは大事なことはありません。大切なのは、心からやりたいことをやる、歌える限り、喜び歌うことです。

今の私の夢は日本へ留学して、日本のオペラ歌手の歌を聴くことです。大村博美さんの暗くて太い歌声や、森麻季さんの朗らかで鮮やかな歌声をぜひ生で聴いてみたいです。

皆さん。皆さんは、何か心からやりたいことがありますか。もしあるのなら、ぜひやるべきです。遠慮しないで、怖がらないで、本当にやりたいことは必ずやってみてください。

Podsumowanie(60-70 słów)

Krótką historią o tym, jak ważne jest spełnianie własnych marzeń i o tym, że nie można ich porzucać. Opowiedziane w kontekście miłości do muzyki oraz dążeń do nauki śpiewu klasycznego, mimo wielu przeszkód.